

電機ジャーナル

DENKI JOURNAL

NEW MEMBER

JVCケンウッド・サービス労働組合

JVCケンウッド・パートナーズ労働組合

FOREWORD

電機連合 中央執行委員長 野中 孝泰

労働運動としての生産性向上

広報委員スコープ season2 輝く電機の仲間たち ⑦

パナソニック健保労働組合

みんながイキイキと働けるよう
健康を守る人

キーワードから読む組合ほくらのこれから ④

誰一人取り残さず
ずっと平和に暮らしていくために

INSIDE ▶ OUTSIDE

政治:伊藤 惇夫

追い詰められる安倍政権
チラつき始めた解散・総選挙の影

経済:高成田 享

米中貿易戦争のゆくえ

地協探訪

長野地方協議会

働く仲間の声を国政に!

衆議院議員 浅野 さとし

大使館便り From INDIA

在インド日本国大使館 一等書記官 浦 誠治

INFORMATION

電機総研

「ライフキャリア研究会」報告会を開催

電機連合イベント予告

経営分析講座(初心者・初級/中級/上級)

情報宣伝担当者講座

教育担当者会議

賃金実務者養成講座/退職金・企業年金セミナー/技術者フォーラム



Feature
特集

業種別部会の 役割と活動

vol.249

半導体・ ディスプレイ 部会



Feature
特集

業種別部会の 役割と活動

2017年10月17日に結成総会を開催した「半導体・ディスプレイ部会」。電機連合の8番目の業種別部会として始動しました。

「業種別部会」と聞いて、何を連想するでしょうか。闘争時などに名前を耳にしたり、存在は知っていても、どんな活動をしているのか知らないことも多いのではないのでしょうか。

今回、新しい部会誕生に合わせて、あらためて業種別部会を考えてみましょう。普段は切磋琢磨する同業の会社と同じ部会で労働条件などの課題を共有して、一緒に解決に向かって取り組んでいます。もしかすると、部会運営の中にこれからの取り組みに活かせるヒントがあるかもしれません。



業種別部会の役割

業種別部会の位置付けと役割・機能

業種別部会は「緩やかな部会運営を基本に、業種内の大手、中堅・中小労組間の相互の連帯と融和を図り、主要闘争時、各業種のかかえる独自の運動課題や産業政策課題などについて、情報交換と研鑽けんざんの場」と位置付けられています。

また、その役割と機能は、①組織の規模にかかわらず同一の業種別に情報交換や連帯感を強化し組織強化をする、②業種の持つ固有課題に対応する、③電機連合未加盟の同業種の組織に対して同じ業種の仲間として電機連合加入を支援する、の3点です。

なお、電機産業では事業環境の変化に伴う合理化や組織再編が頻繁に発生している現状があり、業種ごとの産業政策、経営対策機能の強化は喫緊きつぎんの課題でもあり、加盟組合の組織強化を支援する取り組みとして業種別部会活動の重要性はますます大きくなっています。

業種別部会の構成組織と「運営ガイドライン」

電機連合に加入する際は、必ずどこかの業種別部会に所属することになっていますが、一括加盟構成組合の場合には、一括加盟本部が認めれば一括加盟本部が所属する業種別部会以外の部会に参加す

業種別部会運営ガイドライン

- ① 総会の実施(年1回)
- ② 幹事会等執行機関の設置と会議開催(少なくとも年2回程度)
- ③ 会計報告書の電機連合への提出
- ④ 中央闘争委員会開催に合わせた情報交換の場の設置

ることができません。

業種別部会の運営充実に向けては、「業種別部会運営ガイドライン」に基づいた部会運営の強化に取り組んでいます。電機連合本部との連携強化を目的として、各部会担当の本部役員を配置し、闘争時だけでなく通常時の部会活動でも連携した取り組みを行っています。また、各業種別部会が課題を共有して、横断的な取り組みと業種別部会全体の円滑な運営に向けて、業種別部会連絡会議を年に1回開催しています。

業種別課題の産業政策への反映

電機連合では、新たな雇用創出に向けた産業政策、経営対策の一層の強化を図るため、政党・省庁および業界団体との政策協議に反映できるように、各業種別部会、業種別懇談会における意見交換の機会を充実させ、業種別課題抽出の取り組みを行っています。

業種別部会新設時の手続きについて

業種別部会を新設する際は、新設申請に基づいて中央執行委員会が審議・承認後、直近の機関会議で承認を求めます。部会新設時の申請には、左表の2通りの申請経路があります。

なお、中央執行委員会で業種別部会の新設が承認された場合は、業種別部会の新設について加盟組合全体に周知したうえで、一定の移行期間を設け、新設部会への異動について加盟組合が検討して、意思表示できるようにしています。

業種別部会の新設基準

構成単組数3組合以上、実在人員1万名以上

業種別部会を新設する際の申請経路

- ① 電機連合本部が、産業政策課題の動向や戦略的な組織拡大の必要性などを考慮して、部会新設申請を行う場合
- ② 電機連合加盟組合が、業種別部会の位置付けに沿った業種別部会の新設を希望し、部会新設申請を行う場合

History

業種別部会の歴史

7部会体制で 研鑽を続けた30年間

電機連合業種別部会の歴史を振り返ると、1985年9月に部品部会が発足し、業種別部会の歴史はスタートしました。

その後「第2次組織強化特別委員会答申」を受けて、第10回代表者会議（1987年9月開催）で業種別部会の位置付け（P5参照）を示し、先行していた部品部会に続いて総合、重電、通信、情報、家電、音響の6部会を新設することが確認されて以降は、7部会体制で活動を続けてきました。

8部会体制までの変遷

1985年9月

部品部会が発足

1987年9月

第10回代表者会議で
6部会（総合、重電、通信、情報、家電、音響）
の新設を確認

7部会体制へ

2007年7月

第55回定期大会で
「業種別部会運営ガイドライン」を提起

2017年10月

半導体・ディスプレイ部会を結成

8部会体制へ



第55回定期大会議案書

第55回定期大会（2007年7月開催）の「組織運営強化委員会報告」で、「業種別部会運営ガイドライン」が示され、部会運営の強化と本部との連携強化に取り組んできました。また、同報告では新たな業種別部会設置に向けて、将来の「半導体部会」設置を念頭に置いた「半導体業種別懇談会」が設置されました。

前身となる 「半導体業種別懇談会」の 発展的解散を経て

電機連合の加盟組合による「半導体業種別懇談会」とともに、電機連合への加盟の有無を問わず参加できる、組織拡大を目的とした「半導体産業別懇談会」も同時に2007年からスタートしました。2010年に両懇談会を統合して、「半導体業種別・産業別懇談会」として活動を続けてきましたが、連帯強化・産業政策・組織拡大など、その役割を十分に果たしてきたことから業種別部会移行の考えを示し、2017年4月に発展的解散をしました。

第65回定期大会（2017年7月開催）で、部会の位置付けを再整理するとともに部会新設に伴う手続きを明確化しました。その際に、部会新設の申請経路を①電機連合本部が行う場合と②電機連合加盟組合が行う場合の2通りが設定されました。「半導体・ディスプレイ部会」は電機連合本部が提案し、加盟組合全体に周知したうえで、加盟組合が新設部会への異動を検討し、意思表示するための期間を設けて、2017年10月に結成総会を行いました。そして、現在の8部会体制になりました。

なお、人材ビジネス産業政策懇談会については、参加組織と部会化に向けた検討を引き続き行っていきます。

新 業種別部会 半導体・ディスプレイ部会がめざすもの

半導体・ディスプレイ部会 部会長 荒井 雅彦氏
(ルネサスグループ連合 会長)

2017年10月に発足した「半導体・ディスプレイ部会」。初代部会長に就任されたルネサスグループ連合 荒井会長に、部会の前身となる半導体懇談会から「部会」へと発展する過程と新しい挑戦について伺いました。



半導体・ディスプレイ部会は、2017年7月での半導体業種別・産業政策懇談会の発展的な解散を受け、懇談会に参加していた有志組合と、新たに、それまで加入していた業種別部会を離れたディスプレイ関連の組合の、合計18組織（一括加盟組織×1、単独直加盟組合×14、一括加盟構成組合×3）が集い、同年10月17日に電機連合の8つ目の業種別部会として設立しました。10年間の懇談会活動をベースにしつつ、新たな活動を模索する半導体・ディスプレイ部会

レイ部会の取り組みについて紹介します。新設した業種別部会に求められるものは何かを、ともに考えたいと思います。

互いの苦しみや悩みを共有した懇談会を発展的に解散

半導体業種別・産業政策懇談会は、2007年9月に開催された「半導体関連産業シンポジウム」を受けて設置されました。半導体業界にとってはまさに激動の10年間でした。参加した組合の母体企

業では、グローバルかつ異業種を巻き込んだ熾烈な競争の中で、生き残りや勝ち残りをかけて、働く者にとって極めて大きな痛みを伴う、企業統合や厳しい構造改革、人員削減と労働条件改定などが断行されてきました。

わたしたちは、その時々において、有識者を招き市況や産業動向を学ぶと同時に、個々の企業動向や組合活動に関する情報交換を通じて互いの苦しみや悩みを共有し、各組合が課題対応への参考としてきました。そして、電機連合本部と連携して新しい仲間を増やす活動にも取り組みました。それらの成果や記録（課題提起や構造改革事例集など）は報告書に取りまとめ発刊してきました。

また、懇談会の草創期にともに活動した石上としお氏が2013年7月参議院議員選挙で当選され、わたしたちの代表として活躍されていることは大変な誇りでもあります。

これらの活動を通じて、懇談会が企図した役割は十分果たせたものと考え、2017年7月に発展的に解散することとしました。



活況期でも苦しみの途上 電機連合に加盟する意義とは

現在、半導体ならびにディスプレイ業界は、「数十年に一度の空前の半導体需要」、「ディスプレイ業界での投資も活発」とも言われ、活況期に入っています。一方で、この業界は激しい国際競争の中で多くの不安定要素を持ちます。今もなお変化の日々が続き、わたしたちは苦しみ途上にあります。

では、わたしたちは電機連合に加盟する意義を何に見出すべきなのでしょう。加盟するだけで自組織が抱える悩みが解消するわけでもなく、労使関係が改善するわけでもなく、労働条件がよくなるわけでもありません。

電機連合には、これまでのさまざまな経験から蓄積された多くの知見やノウハウがあります。それを学び、適切な助言やサポートを受けることができます。しかし、知見やノウハウ、助言通りに行動しても課題が解決するとは限りません。それは課題の本質が違う可能性があるからです。

自分たちの置かれた固有の環境（ビジネスモデル、経営環境、経営者など）の中で、如何に本質を見極め、何のために何をすべきかを考え抜き、仮説を立て、自分たち「ならでは」のやり方に変えることができるか、そして粘り強く行動し検証する。その繰り返しが大変なのではないでしょうか。そのとき、電機連合や仲間は心強い支えになると思います。

【図1】半導体・ディスプレイ部会運営要領から

- 業種別部会の位置付けの範囲の中で、以下のコンセプトを持った活動を通じて、部会の土台を創り上げていく
- 「各々が得たいこと、したいことを実現する場」
「皆で分担して、全体で支え、かつ主体的に活動する」
「組織はシンプルに、役割はフラットで」
- 大切なのは、主体的に活動に参加すること、そして満足感を得ること

【図2】「したいこと」と今年度の活動

① 業界の動向を客観的に把握する活動

◎国内外の業界全体の動きを知りたい ◎会社の言っていることが実態であるのか検証できるようにしたい ◎会社の将来を考えることができるようにしたい ◎組合が独自に情報(市場動向など)を得て労使協議等で提案できるようにしたい ◎中長期の視点で論議したい

② 組合役員のレベルを上げる活動

◎役員の知識を広げる場がほしい ◎人を知り、広げる枠組みがほしい ◎他社、他労組の役員との情報交換で刺激をもらいたい ◎役員の仕事の意見を吸い上げるスキルを向上させたい ◎全員が非専従であり、具体的な目標設定を常に考えての行動が弱い。強化したい

③ 業界独特の働き方、処遇や報酬制度などの情報交換

◎同業他社の報酬水準を正確にベンチマークする機会がほしい ◎グローバル企業の報酬ポリシーは「市場との競争力のある水準」の観点が強い ◎競争根拠となりうるデータを得たい ◎海外法人の従業員代表とのコミュニケーションの在り方も考えたい

主体的に参加し活動する、
そして満足感を得る

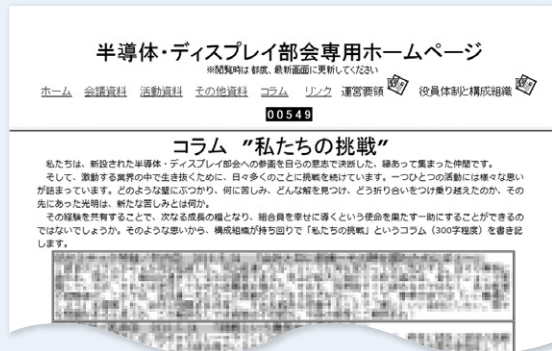
わたしたちは、新しい業種別部会を設立するにあたり、電機連合の業種別部会の位置付け(P5参照)の範囲で、どのような活動ができるのかを模索しました。そして、たどり着いた一つの考えが、「大切なのは『主体的に参加し活動すること』。そして『満足感を得ること』。この部会に参加する各々の組合が持つ『したい』を実現し、『悩み』を解決する場にしていく」でした。

集った組合の賛同を得て、新部会の運営要領の総則にも明記しました【図1】。

これまで加入していた業種別部会を脱退し、加入を決定した組合の思いや期待はさまざまです。わたしたちは、10月17日の設立総会に各々の組合が考える「したいこと」を持ち寄ることとし、当日は空白の議案書に書き込み、みんなで思いを共有し、実現に向けたアプローチのアイデアを出し合いました。結果として、3つの活動を決め、そして主体的に取り組むグループに分けてリーダーを配置しました。【図2】が「したいこと」と今年度の活動です。今、リーダーの音頭で少しずつ活動を進めています。

集った組織の「したいこと」

設立半年の今、
始めた小さな活動



“私たちの挑戦”タイトル抜粋(順不同)

▼変革への挑戦 夢を紡ぐ ▼経営者の言葉を信じ、苦渋の決断をする ▼不満と不安から希望への転換 ▼異文化との融合へのチャレンジ ▼笑顔を求め、愚直に地道に ▼存在価値あるグローバル企業に向けて



事務局長 瓦井 芳幸氏
(MEMC労組 執行委員長)

半導体・ディスプレイ部会に集う組合は、一度既存の部会を抜けたこの新部会へ来ています。それはまさしく違った環境で新たなことに挑戦する証でもあります。しかし挑戦にとどまることなく、創造していくという強い意志や結束も大切にしていきたいと考えています。今後、半導体・ディスプレイ部会で挑戦し創造していくものが、結果として電機連合の活動により影響を及ぼすことができれば幸いです。

ひとつの取り組みとして、昨年12月から「私たちの挑戦」と題した300文字のコラムの執筆を部会に集った組合に呼びかけています。その意図は次の通りです。「私たちは、新設された半導体・ディスプレイ部会への参画を自らの意志で決断した、縁あって集まった仲間です。そして、激動する業界の中で生き抜くために、日々多くのことに挑戦を続けています。一つひとつの活動にはさまざまな思いが詰まっています。どのような壁にぶつかり、何に苦しみ、どんな解を見つけ、どう折り合いをつけ乗り越えたのか、その先にあった光明は、新たな苦しみとは何か。その経験を共有することで、次なる

成長の糧となり、組合員を幸せに導くという使命を果たす一助にすることができるとは思いません。2018年5月時点で、この呼びかけに賛同して、15組合から28本のコラムが寄せられています(コラムは部会ホームページで公開し共有)。このコラムからひとつでも悩みの解決につながることを期待しています。

「私たちの挑戦」は始まったばかりです。わたしたち自身が歩む道で、変化を恐れず、何をすべきかを考え行動すれば必ず活路は拓かれると思います。電機連合本部ならびにほかの業種別部会事務局、そして電機連合加盟組合のみなさまの、ご支援と温かいご指導をいただければ幸いです。

Group 業種別部会 紹介

現在、電機連合には8つの業種別部会があります。
「半導体・ディスプレイ部会」に先行している7つの部会の活動をそれぞれの部会事務局長がご紹介します。

総合部会 部会長:坂本達哉氏(日立グループ連合 会長)



事務局長 吉川 哲之氏
(富士電機グループ連合)
中央執行委員長

総合部会は、日立グループ連合、東芝グループ連合、三菱電機労連、富士電機グループ連合の4組織で構成され、組合員数は約20万人です。

活動は年1回の総会(各組織の三役・政策局長で構成)・講演会のほか、代表者会議、副委員長会議、書記長会議、事務局長会議を適宜開催しています。闘争時を中心に情報交換を行うとともに、視察研修会(工場・発電所など)を2年に1回実施し、役員の見識を広めています。

重電部会 部会長:井上弘暢氏(安川グループユニオン 議長)



事務局長 今井 康志氏
(明電舎労組)
中央執行委員長

闘争時の情報交換会では、積極的にお互い参考となる情報を交換しています。参加者から対応に苦慮している課題も出され、各組合の状況を説明して参考にしてもらっています。

研修にも力を入れており、12月には電機本部役員を講師に闘争準備の研修会を実施して各労組の要求立案につなげてもらい、5月には外部講師の講演研修会で知見を広げています。

幹事会を各組合の所在地付近で開催し、御当地の組合と幹事で意見交換も行っています。

家電部会 部会長:廣田典昭氏(パナソニックグループ労連 中央執行委員長)



事務局長 津田 秋一氏
(シャープグループ労連)
中央執行委員長

家電部会は、家電事業に関連する18組織で構成しています。部会長の強い思いから、加盟形態や組織規模などの違いを認め合い、組織を超えた忌憚のない議論ができる運営を心掛けています。

音響部会と合同で開催する国内外のセミナーや労使懇談会など、部会だからこそできる機会をより多く設け、それぞれのリーダーが知見や見識を高めるとともに、同じ立場だからこそ言える本音の意見交換を行っています。「楽しく!本音で!」が家電部会です。

音響部会 部会長:古庄孝和氏(パイオニア労連 中央執行委員長)



事務局長 石部 卓氏
(ヤマハグループ労連)
中央執行委員長

音響機器などの製造販売および音楽・映像コンテンツを制作販売する14組織で構成しています。賃金・労協担当者会議や書記長会議などの担当別会議に加え、全執行委員を対象とした研修会や海外セミナーなど、活発に活動しています。

他部会との合同イベントも多く、友好提携を結んだ北海道陸別町とのイベント(役員向け研修、児童向けサマーキャンプなど)を30年に亘り情報部会とともに実施、家電部会とは海外セミナーや労使懇談会等を開催しています。

通信部会 部会長:板倉和寿氏(全富士通労連 会長)



事務局長 石井 隆之氏
(NECグループ連合)
中央執行委員長

CommunicationやNetworkという言葉には「通信」という意味があります。わたしたち通信部会は社業という緩やかなつながりの中で、組合の組織規模や歴史の長さなどにとらわれず、気軽にオープンな部会運営をしています。時勢やニーズを踏まえたテーマで開催している研修会も、加盟組合の多くの方に参加いただけるように運営を工夫するなど、コミュニケーション、ネットワークといった組織や人のつながりを大切に活動しています。

情報部会 部会長:佐伯康夫氏(NECソリューションイノベータ労組 執行委員長)



事務局長 鋼谷 浩之氏
(富士通ビー・エス・シー労組)
中央執行委員長

今や社会の基盤を支えるまでに成長した情報サービス産業。43組織で構成し業界固有の課題解決含め、総会や幹事会、各種会議にて積極的に情報交換しています。

労使フォーラムでは、会社関係者はじめ基幹労連や情報労連など他産別のみなさんにも出席いただき、労働政策・産業政策について勉強しています。

3Kや人材不足と言われる時代に別れを告げ、社会を支える産業にふさわしい環境づくりをめざしています。

部品部会 部会長:白木宏司氏(村田製作所労連 会長)



事務局長 荻窪 敏政氏
(ホシデン労組)
中央執行委員長

部品部会は直加盟・オプ加盟(一括加盟組織)を合わせて70近くの組織で構成しています。組織規模の大小や、部品の中での業種も多岐におよぶため部会運営の難しさはあるものの、加盟組織間での情報共有や、自己研鑽のための活動を精力的に展開しています。主な活動は、労使とともに学ぶ「労使政策研究会」や、視野を広げるための「海外労働事情調査」、闘争情報共有の場としての「書記長・実務者研修」「闘争時連絡会」などを行っています。

業種別部会に期待されること

電機連合には、今年度新設された「半導体・ディスプレイ部会」を含めて8つの業種別部会があります。業種別部会は「業種別部会運営ガイドライン」(P5参照)に基づく運営がされており、工場見学や海外視察、社会貢献活動、各種セミナーや研修会など部会独自の活動も実施されています。

電機連合には、闘争時の中闘、拡大中闘、地闘や政策検討・立案時の政策委員組合、中堅・中小労働組合協議会のような縦の組織がある一方で、業種別部会のような横の組織もあります。業種別部会は、業種ごとにかかえる運動課題や産業政策課題などに横断的に取り組むことができる組織として位置付けられており、加盟組合を業種横断的につなぐ重要な役割を担っています。

業種別部会の設立当初の位置付け(P5参照)から発展し、現在では構成組合間の連帯を通して、産業政策、経営対策、組織拡大などの機能をあわせ持つ横断的な組織として産別運動における存在感がますます大きくなっています。

また、中堅・中小組合では非専従の役員が多く電機連合の各種会議への出席もままならないという組合もあり、業種別部会は大手組合の役員のみなさんとさまざまな意見交換ができる貴重な機会となっています。一方で、一括加盟構成組合から見たときには、業種別部会はグループ外の組合と交流できる場としての性格も持ち合わせており、企業文化や組織風土の違いを直接感じることができる機会にもなっています。

近年、電機連合の政策・制度要求の策定に際しては、タイムリーな政策を反映するため業種別部会とも連携を図り、徐々に業種別部会より政策課題の提案をいただけるようになってきています。

今後は、電機連合が現在取り組んでいる政策・制度要求などの状況を、業種別部会のみなさんに説明させていただく場を設定し、双方向での、より活発な意見交換が行えるようにしていきたいと考えています。今後、各業種別部会で開催されているセミナーや研修会などでの、ご検討をお願いいたします。



総合組織部門書記次長
兼 組織・中小対策部長
内田 幸雄



また、組織化に際して、電機連合への加盟を検討している労働組合にとっては、同業種の労働組合と交流する機会があるということが大きなメリットとして捉えられています。加盟組合のみなさまには、これまででも多くのご協力をいただいていたのですが、これからも深く連携をさせていただきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。